

100 RSNA® 2015

“Innovation is the Key to our Future”をテーマに掲げた第101回北米放射線学会 (RSNA 2015) が2015年11月29日(日)～12月4日(金)の6日間の日程で開催された。米国イリノイ州シカゴ市にあるマコーミックプレイスを会場に、5万1922人が参加。また、Technical Exhibitには659社が出展した。RSNAは2014年に100回目を迎えたが、次の100年に向けた放射線医学の発展には、技術の進歩が重要なカギを握っている。このような考えから、今回は3Dプリンティング、人工知能などの「イノベーション」に焦点が当てられ、放射線医学の未来を感じさせる大会となった。なお、Technical Exhibitは、1月号別冊付録「RSNA 2015 ハイライト」、インナビネット「RSNA 2015 スペシャル」(<http://www.innervision.co.jp>)も、併せて参照されたい。



特集

RSNA 2015

Innovation is the Key to our Future

放射線医学のカギを握る イノベーション

RSNA 2015の初日11月29日には、8時30分からマコーミックプレイス内のArie Crown Theaterにおいて恒例のOpening Sessionが行われた。本セッションの進行役を務めたのは、カリフォルニア大学サンフランシスコ校のRadiology and Biomedical Imaging部門教授のRonald L. Arenson大会長。このOpening Sessionの中で行われたPresident's

Addressで、Arenson大会長は、“Going Boldly into Radiology's Technological Future : Why Our Profession Must Embrace Innovation”をテーマに講演した。放射線医学は、100年以上の歴史の中で、X線撮影装置やCT、MRIなどのモダリティが登場し、その技術の進歩とともに、診断精度が向上して、医学の進歩に貢献してきた。近年は、PACSや画像処理ワークステーションといったITの活用も進み、臨床現場に変革をもたらした。Arenson大会長は、こうした放射線医学における技術の歩みを振り

返った上で、現在は個別化医療への対応や医療費抑制のために、遠隔診療、ビッグデータ解析などが求められていると述べた。さらに、Arenson大会長は、SFドラマ「スター・トレック」を引き合いに出しながら、放射線医学もITなどのイノベーションを積極的に活用し、患者のための医療を提供していくことが重要であるとまとめた。

Arenson大会長のPresident's Addressの後には、米国医科大学協会のDarrell G. Kirch会長兼CEOによるSpecial Lecture “Radiology, Medicine,



大会長の
Ronald L. Arenson, M.D.



Special Lecture を行う
Darrell G. Kirch, M.D.



Jeffrey R. Immelt 氏の
New Horizons Lecture

and Healthcare : Will Inaction or Innovation Determine Our Future?”が行われた。Kirch 会長兼 CEO は、米国における医療提供体制の偏在化などの課題を指摘し、患者中心の医療を提供するためのチーム医療の必要性と、そのためのリーダーシップの重要性に言及した。

未来の技術に目を向ける プログラム

また、RSNA 2015 は、イノベーションがテーマとなった大会であったことから、技術開発を担う側である企業関係者が講演を行うなど、例年にはないプログラムが組まれた。11月30日(月)に Arie Crown Theater で行われた New Horizons Lecture において、GE の Jeffrey R. Immelt 氏が “Redefining Innovation” をテーマに講演した。Immelt 氏は、これまでの放射線医学における技術開発の事例を紹介し、クラウドなどの新しい技術を取り入れることで、さらに臨床でのメリットや生産性の向上が得られると述べた。また、今後の技術開発のコンセプトとして、臨床面での成果を示すこと、患者満足度を向上すること、製品のライフサイクルを長くすること、

戦略的に医療機関を成長をさせることだと語った。

このほか、未来の放射線医学に向けたイノベーションを紹介することを目的として、Lakeside Learning Center に、Centennial Showcase が設けられた。前回の Centennial Showcase は、エポックメーキングな製品や RSNA に関連する記念品などを展示していたが、今回は 3D プリンティングや人工知能、仮想現実といった技術を紹介し、来場者が体験できるようにした。

日本から 4 演題が Magna Cum Laude を受賞

一般演題は、Scientific Paper が 1728 題、Scientific Poster が 921 題、Education Exhibit が 1762 題採択された。12月2日(水)には、Arie Crown Theater で “Announcement of Education Exhibit Awards” が行われ、Arenson 大会長から Magna Cum Laude の受賞演題が発表された。日本からは、金沢大学の米田憲秀氏らの “Hepatobiliary Phase of Gadoteric Acid Enhanced MR Imaging of Benign Hepatocellular Nodules Based

on Molecule Background”, 防衛医科大学の新本 弘氏らの “Prostate Cancer in the Transition Zone and the Anterior Fibromuscular Stroma : Clues to the Diagnosis in Multiparametric MRI with Emphasis on Intraprostatic Patterns of Spread and the Relative Frequency of the Locations”, 佐賀県医療センター好生館の三井宏太氏らの “Cerebral Disease : Optimal Imaging Method for Preoperative 3DCT - Arteriovenous Separation Scanning Method”, 聖路加国際病院の Jay Starkey 氏らの “Reduced Diffusion of the Corpus Callosum : Mechanisms, Etiologies, and Manifestations of Cytotoxic Lesions of the Corpus Callosum (CLOCC)” が受賞した。

展示面積が縮小した Technical Exhibit

659社が出展した Technical Exhibit は、マコーミックプレイスのサウスビルディング (ホール A) とノースビルディング (ホール B) の2会場で行われた。RSNA 2015 が初参加となったのは 94 社で、うち 4 社が日本企業であった。展示面積は 41 万 9300 平方フィートとなり、前回よりも縮小された。

◎

次回、RSNA 2016 は、2016年11月27日(日)～12月2日(金)の日程で行われる予定である。大会長はシカゴ大学メディカルセンターの放射線科教授である Richard L. Baron 氏が務める。



Centennial Showcase での人工知能 (IBM Watson) を用いた画像診断支援のデモ



Announcement of Education Exhibit Awards での受賞演題の発表



前回より展示面積が縮小された Technical Exhibit